

2004/2005 度 L - ラーニング学習支援システム研究分科会 (第3回)記録

平成 16 年 12 月 3 日
駒澤大学図書館 佐藤稔彦 記録

日 時 : 平成 16 年 11 月 26 日 (金) 13 : 00 ~ 19 : 00

場 所 : 駒澤大学 図書館 4 階会議室

出席者 : 池田 (多摩大学) 小田切 (麻布大学) 金子 (早稲田大学) 高野 (日本女子大学)
佐藤 (駒澤大学)

配布物 : 第 3 回 L-ラーニング学習支援システム研究分科会タイムテーブル

1 . 12 月 1 日アップ問題に関する決定事項

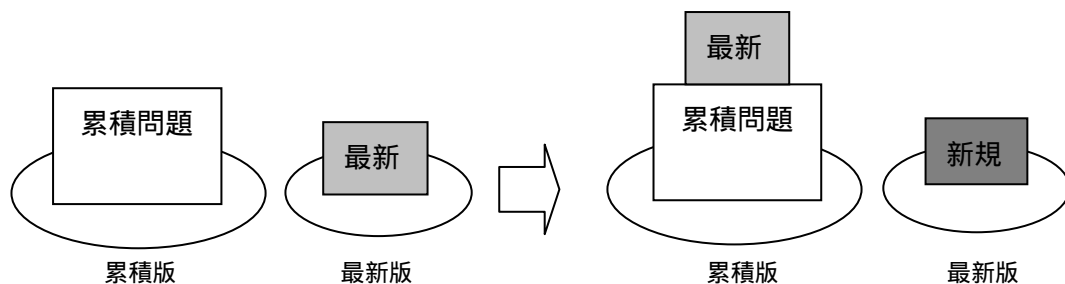
模擬試験ページ「アンケート」について

私大図協の規程により、アンケートを実施するには承認を得る必要がある。しかし、本分科会では WEB 上の模擬試験を受けての意見をフィードバックとして必要とするものであり、私大図協の言うアンケートとは性質が異なる。(「研究分科会アンケート調査実施に関する指針」におけるヒアリング調査及び模擬調査に該当するものと考えられる)そこで、この点を明確にするために「アンケート」を「ご意見」、「評価」のように名称変更する。また、アンケートの項目についても新たに決定した。

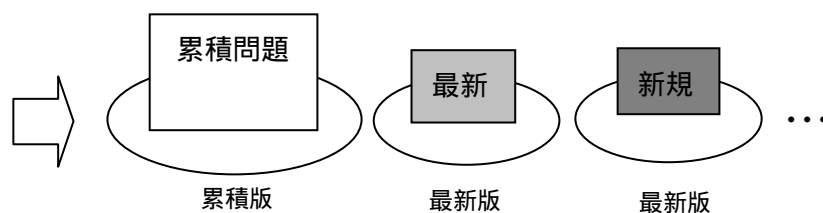
新規問題をアップした際の問題構成について

新規に問題をアップした場合、これまでの「最新版」と「累積版」をどのように扱うか話し合われた。

(案 1)これまでの「最新版」を「累積版」に統合し、新規追加分を「最新版」とする



(案 2)「累積版」「最新版」はそのままだに、最新版を追加してゆく



議論の結果、(案 1)で新規問題を追加することとする。

その際、これまでの「挑戦者数」「合格者数」「正答率」といったデータは記録として公開し、新たに集計をはじめ。

の決定事項に関しては、12月1日のアップの際に実行される。

2. 今後の活動立案

平成16年11月に集計された参加メンバーの意見を元にして、分科会の今後の活動について話し合われた。

「L-ラー」の戦略と次期フェーズ

第1フェーズ

- ・自己研鑽の自覚
- ・モチベーションを上げる
- ・E-ラーニングを使って垣根を低くする

第2フェーズ

- ・体系的に編集した、学習に役立つサイトのポータルページ作成
- ・そこで学習した上でのテスト

本分科会は学習用ページの作成が目的である。そのための戦略的手段として、本来後に作られるはずの問題から作成している。

第1フェーズの目標はある程度、達成された。

第2フェーズへの移行。内容は以下の。

図書館の各分野の体系化（実地的・実践的な知識）

大学図書館員に必須の知識の範囲はどこまでなのか

- ・ ネットワーク
- ・ 分類 …etc

図書館勤務経験のないバイトや新人職員、しばらく図書館から離れていた職員がすぐに仕事を行うことは難しい。

分業により知識の偏りがある

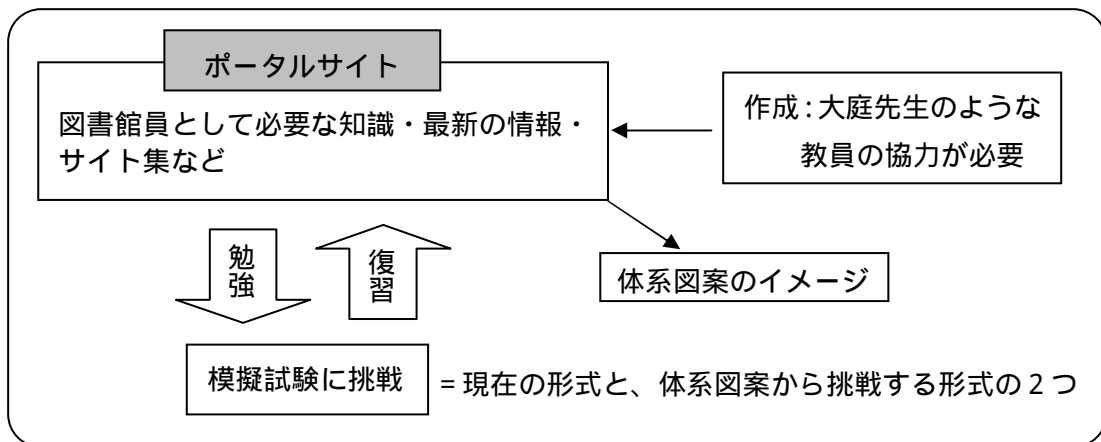
図書館のスキル・知識の体系化

- ・ 必要な部分を効率的に学ぶことができる。
- ・ 現場で使うことができるスキル・知識の提供
- ・ 受け取り手が自分で知っておくべきことを選ぶことができる。

体系図案（これがL-ラー的体系知識だ！）



ポータルサイトの作成（概念図）



第3回例会では議論の全てを行うことができなかったため、平成16年12月中に臨時会を開くことが決定された。開催場所は金子氏の早稲田大学戸山図書館とし、日程については後日調整することとなった。

以上